

パスカル言語教育における

電子メールの活用について

4Q-7

立花 厚子、二宮 玲子、恒川 久子

日本女子大学理学部

1. はじめに

近年、情報のネットワーク化が進展する中で、大学における教育用情報システムが変化しつつある。

本学の目白キャンパスでは既存のホストコンピュータ FACOM-M340Uと端末30台のシステムを下図のような、学内ネットワーク型のシステムに増設変更し、教育用システムはパーソナルコンピュータ主体の形態とした。

このシステムの特徴は、学内電子メールが利用できること、図書館システムをSS-NET経由で使用できること、各研究室や西生田キャンパスや外部からもホストコンピュータを使用できること、また外部のデータベースやBITNETなども使用できることなど、情報化社会としての機能のある程度備えていることである。システムの増変更により、電算機実習室を使用する授業科目も様々な科目に広がりつつある。使用するソフトも多様になり、授業において、外部データベースや電子メールの利用などもなされるようになり、情報化社

会にふさわしく変化してきている。しかし一方では、パソコンでは間に合わない研究等も依然として存在し、増加している。

本報では、本学学生のコンピュータやパソコンに対する知識や意識などを調査したので報告する。また電子メールを授業で利用して、TURBO-PASCALを使用してプログラム主体の授業である科目、すなわち我々が担当している電子計算機演習(家政学部数学系、選択通年)とコンピュータ(家政学部共通専門教育、選択、家庭科教職のものは必須、半期)に対して、コンピュータに対する知識や意識の調査に加え、現場の実感とともに学生の電子メールの反応や利用状況等を調べ、利用形態等や問題点等を検討したので報告する。

2. 教育用環境

電算機実習室Ⅰ、Ⅱ、Ⅲはそれぞれ下記のものを使用できる環境である。

実習室Ⅰ: PC-ゼミ、パソコン70台、AV装置
①ワープロ(一太郎DASH) ②N88-BASIC
③QUICK-BASIC ④表計算(アシストカルク)

⑤TURBO-PASCAL ⑥PC-FORTRAN ⑦PCA会計、教師用のみTS
S接続、電子メール

実習室Ⅱ: パソコン
25台、AV装置

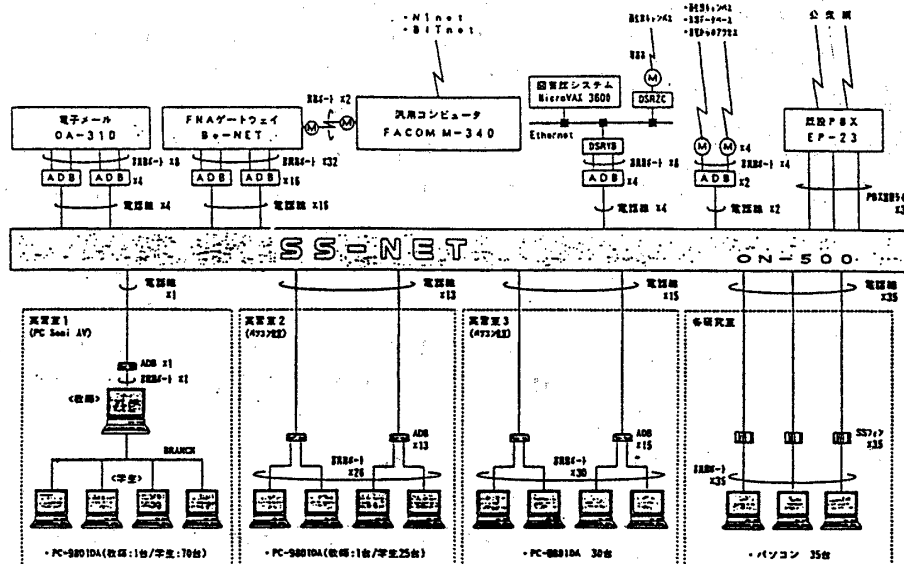
①②③④⑤⑥と⑧デ
ータベースソフト
(PC-PICK)

TS S接続、電子メ
ール

実習室Ⅲ:

パソコン30台

①②③④⑤⑥、TS
S接続、電子メール



日本女子大学目白地区ネットワークシステム構成図

Uses for Electronic Mail on Education of Pascal Programing

Atuko Tachibana, Reiko Ninomiya, Hisako Tunekawa

Faculty of Science, Japan Women's University

3. 調査方法

調査は1991年10月に一般教育科目英語のクラス1年生93名、家政学部共通専門科目コンピュータ2、3年生88名、物理専攻3、4年生40名、11月に人間社会学部電子計算機演習(通年科目)1、2年生127名に対しておこなった。家政学部共通の学生に対しては授業開始前に行った。

電子メールを使用したクラス、すなわちコンピュータと電子計算機に対しては1992年12月、ほぼ授業過程の大半が終わった時期に電子メールの事柄も含めアンケート調査した。

4. 結果及び検討

パソコンの所有割合は図2のようである。約30%の者が何らかの形で家にパソコンを所有していることがわかる。パソコンの経験は大学での経験がほとんどであり、高校までで経験している割合は多くても18%程度であった。コンピュータ関連用語については、全体としては同じ傾向ではあるが、学科により多少差がみられた。またパソコン通信という

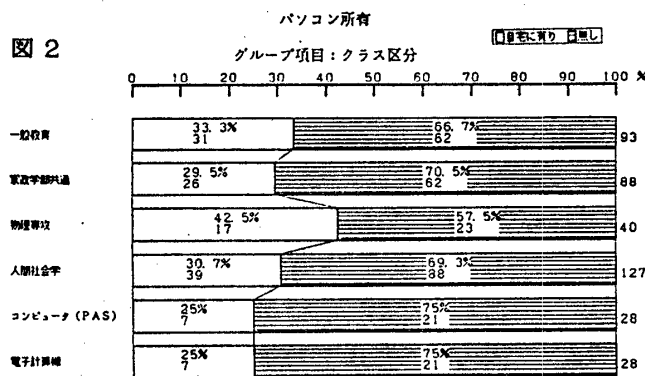


表1. 同意する事柄の割合 (%)

コンピュータ関連事項	一般教育	家政学部共通	物理専攻	人間社会	コンピュータ	電子計算機
教養として習わない	72	85	73	76	79	79
社会に役立つ	3		3	4		
パソコンは楽しい	51	66	78	51	79	86
就職に必要	27	26	33	38	46	36
家庭生活に必要	35	51	25	41	39	39
卒業に必要		3	8	2	7	
知識として	7	24	43	19	18	
使えたと便利	2	6	8	5		
ワープロだけ	83	90	95	88	89	96
難しそう	37	35	18	53	25	21
習う予定	40	46	15	32	43	43
明るい未来	7	14	5	2	4	7
人間を破壊	3	3	18	2	4	4
使えなくてよい	3	3	10	2	7	14
	8	3	10	8	4	7

表2. 電子メール使用頻度割合 (%)

使用程度	コンピュータ	電子計算機
使わなかった	43	
数回さわった程度	40	46
時々使った	14	25
よく使った	4	27

表3. 電子メールの使用割合 (%)

使用項目	コンピュータ	電子計算機
友人にメールを	19	32
先生にメールを	25	64
メールを読む	56	46
レポート提出に	19	79
ダウンロード	6	18
タイプ練習	31	39
掲示板を読む	44	25
掲示板に掲載	13	4
自分のプロフィール	44	50
他人のプロフィール	19	

言葉は知ってはいるものの、通信関係の用語はほとんど知らないことが分かった。さらにコンピュータに対して同意する事柄を調べた結果は表1である。人間社会のクラスはワープロだけであればよいの意見が半数を越えていることが分かる。物理、数学(電子計算機)専攻の学生は人間を破壊させるといった考えが他よりわずかに多くなっている。

次に電子メールの使用に関連したアンケート調査について述べる。表2はアンケート調査による使用頻度である。表3はやはりアンケート調査による電子メールの用途についてである。電子計算機のクラスは、ほぼ全員が電子メールを使用しており、レポート提出や教師あてのメールに使用していることが分かる。これに反して、コンピュータのクラスではほぼ半数が使用せず、メールを読むなど受動的な使い方が多いことが分かる。電子計算機のクラスは、すでに半年以上経たところで電子メールを取り入れたのに対して、コンピュータのクラスは計算機が初めての学生も多く、メールでの提出を強要出来なかったことや、実習室Iでの授業のために時間内に学生が使用できなかったこと等が考えられた。授業の感想でキーなれたとの意見が半数近くいたことがわかった。

終わりに、人間社会学部教授杉本敏夫先生のご協力に感謝いたします。